切片内の局在を知りたい



手順

1."画像解析"を選択
 2.データ読み込み
 3.必要があればROI設定
 4.データ行列テーブル計算
 5.画像分類

1. "画像解	屛析"を選択	
Image: 2006 Bit Image: 2007 Image: 2007 Image: 2007 Image: 2007 Image: 2007 Image: 2007 Image: 2007 <td></td> <td></td>		

データファイル(.imdx形式)を読み込みます。







四角、丸、多角形でROIを描写できます。

	но	+/v C 1			
ROI設定 IMDX77+/// Testicle_9AA_PLSL5x_1_AREA01.imdx	憲法 _ Reference Image 1	✓ 参照玉像の設定		ROUZH	– 🗆 ×
	🔹 12#-> 🕒 122#->	яд —		No. 使用 77-6%名	R01名 목性 デ-
		コントラスト		2 Z Testicle_9AA_PL_SL_5	1 ROl001 Center V
		透明度	0		
Carlos and a second	Contraction of the second	平通化フィルター なし	~		
		✓ MSイメージ設定			
		7r1h	~		
		MS-FX-SZ TIC	~		
	and the second second				
	And Carlson and				

ROIを書いたあとに属性を設定します。 ※属性が2つ以上ないと設定しないと検定が行われません。





TICが用いられることが多いです。



4.3 データ1	行列の設定	
	F-9759082 ##7/2 9-7/1 Itel 0:00 ##2-79# 1000 ##22-79## 1020+2595	× 対象とするピークを選択します。 ノンターゲットはスペクトルから一 定幅で信号強度を切り出します。 ターゲットは特定のm/z値と許容幅 を指定します。
	ox	475EL

ノンターゲットはスペクトルから一定幅で信号強度を切り出します。 ターゲットは特定のm/z値と許容幅を指定します。





前処理の計算を行っていない場合はここで一緒に計算されます。 対象とする成分が多くなると時間がかかります。





5.1 画像分	う類パラ	ラメータ
	画像分類パラメータ	×
	クラスター数	 ● 自動 ● 自動的にクラスター数を決めたい場合は ● 手動 5 v * 自動"を、 * □ しの なこっ な - が欲しい場合は** エ 計"
	クラスター間距離	^{ウォード法} ~ を選択して数を設定してください。
	個体間距離	ユークリッド距離
	m/z範囲	700.08492 - 899.88492 Da 自動設定
	データ点数間引き	なし
		実行 キャンセル

自動的にクラスター数を決めたい場合は"自動"を、 沢山のクラスターが欲しい場合は"手動"を選択して数を設定してください。





自動で選択された各クラスタの平均像が左側に表示されます。 右側は各クラスタに含まれるm/zのリストです。 リスト内のm/zを選択して"MSイメージー覧に追加"ボタンを押すとメインの画 面のMCイメージリストに追加されます。

5.4 MSイメージをメイン画面に追加







事前に興味のあるm/zがある場合にそれがどのクラスタに含まれるか検索できます。



検索したm/zが含まれるクラスタにフォーカスが移動します。



手順

1. 画像解析を選択

2. データ読み込み

3. 参照画像(既知の局在)読み込み

4. 位置合わせ(画像レジストレーション)

5. 必要があればROI設定

6. データ行列テーブル計算

7. 類似画像抽出

1. "画像解	≆析"を選択	
Image: 2016 An Mich Image: 2016 An Mich Image: 2016 Image: 2016 Image: 2016 Image: 2016 Image: 2017 Image: 2016 Image: 2016 Image:		

データファイル(.imdx形式)を読み込みます。





参照画像として使用する画像ファイルを読み込みます。 メニューバーの ファイル→参照画像の管理 を選択します。





使用する画像を選択します。 この例では既に入っていた画像と同じ画像をインポートしています。





"画像レジストレーション"を選択します





画像とMSイメージングのTIC像が重なった状態で表示されます。



画面左側のパラメータ調整のボタンやズームを使用して参照画像をうまくMSイ メージに合うように調整します。


うまく合えば"保存"を選択します。 更に合わせ込む場合は"次へ"を押します。



グリッドが重ね書きされた画像が表示されます。 このグリッドの交点を動かすことによって画像を変形できます。









四角、丸、多角形でROIを描写できます。

5.2 ROIリス	、トに記	載され	ます		
ROLEZE NDUCY/6 Tentice_MALPUS_to_1_AUX01imde 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	_ Reference image 1	マリネスをの設定 構成 コンパラスト 名形成 二日の 二日の <	• •	No. State Free State Free 1 Tentice MAL PL 9 to 1 Al Center V 2 2 Tentice MAL PL 9 to 1 R0001 Center V	
			~		
к М50-9					
RDI表示設定 透明室 5%6	✓ 表示する			C (492b)	

ROIを書いたあとに属性を設定します。 ※属性が2つ以上ないと設定しないと検定が行われません。





TICが用いられることが多いです。



6.3 データ1	行列の設定	
	F-275H0822 #H728 9-754 0 8 0 8 0 8 0 9 0 9 0 9 0 9 0 5 0 82 0 82 0 82 0 82 0 82	× 対象とするピークを選択します。 ノンターゲットはスペクトルから一 定幅で信号強度を切り出します。 ターゲットは特定のm/z値と許容幅 を指定します。
		4+>±6

ノンターゲットはスペクトルから一定幅で信号強度を切り出します。 ターゲットは特定のm/z値と許容幅を指定します。





前処理の計算を行っていない場合はここで一緒に計算されます。 対象とする成分が多くなると時間がかかります。





7.1 使	用する色を選択(この例では白黒)
	類似画像抽出設定 × × IMDX(ファイル Testicke_9AA_P[_SL_Sx_1_AREA01.imdx × 参照画像 _ Reference Image 1
	C (1-2/7-1/-基本) か色画像 好色画像 予合画像
	潜在変数の数 : ○ 自動 ● 手動 15
	指出編 : 3.00000 Da 変行 後日 キャンセル

画像の中の単色しか扱えません。 参照画像の内、使用する色を指定してください。 白黒の場合はグレースケールを選択してください。 潜在変数は自動のほうが精度はいいですが時間がかかります。 抽出数は自動的に画像化されるm/zの数です。 データ点数を間引くと得られる像も間引かれます。 抽出幅は同位体ばかり出てくるのを防ぐための幅でその範囲内の最大の回帰係 数もm/zだけが抽出されます。

7.2 計算ダイア	'ログ	
	類似画像抽出	
	LVs3 計算中 キャンセル	



左側が参照画像、中央がMSイメージングデータから計算された回帰像です。 右側の抽出リスト内に回帰係数の絶対値が大きいものが画像化されます。この 数が"類似画像抽出設定"の"抽出数"です。



抽出リストで画像を選択して"MSイメージー覧に追加"ボタンを押すと、メインの画面に選択した画像が追加されます。





手順

1."画像解析"を選択
2.データ読み込み
3.必要があればROI設定
4.データ行列テーブル計算
5.セグメンテーション

1. "画像解	屛析"を選択	
Image: 2006 Bit Image: 2007 Image: 2007 Image: 2007 Image: 2007 Image: 2007 Image: 2007 Image: 2007 <td></td> <td></td>		

データファイル(.imdx形式)を読み込みます。







四角、丸、多角形でROIを描写できます。

3.2 ROU	ストに記	載さ	れま	d		
	2 · 1 · 1 = HC	/+/v C	1 0 0 1			
ROI設定 IMDX77-{ル Testicle_9AA_PL_SL_5x_1_AREA01.imdx	参探画像 Reference Image 1	✓ 参照玉像の設定			ROIIJスト	×
	🐔 17#-> I92#-	яg	O		No. 使用 77-12-6 用 1 □ Testrile 944 PI SI Sr 1- 4	I名 属性 デー Center ン
		^ J7F97F			2 Z Testicle_9AA_PL_SL_Sx_1 Ri	1001 Center V
		适明度 平滑化7<1.9-	\$L	~		
		✓ MSイメージ設定				
		72416		~		
		MS-fx-5	nc	~		
		-				
	M. Rather					
		~				
K MS43-9						
	_	-				

ROIを書いたあとに属性を設定します。 ※属性が2つ以上ないと設定しないと検定が行われません。





TICが用いられることが多いです。



4.3 データ1	行列の設定	
	F-9759082 ##7/2 9-7/1 Itel 0:00 ##2-79# 1000 ##22-79## 1020+2595	× 対象とするピークを選択します。 ノンターゲットはスペクトルから一 定幅で信号強度を切り出します。 ターゲットは特定のm/z値と許容幅 を指定します。
	ox	475EL

ノンターゲットはスペクトルから一定幅で信号強度を切り出します。 ターゲットは特定のm/z値と許容幅を指定します。





前処理の計算を行っていない場合はここで一緒に計算されます。 対象とする成分が多くなると時間がかかります。





必要があれば ROI設定 データ行列を計算



セグメントの数を設定します。 この場合だと、2群、3群、4群、5群に分けた4つの結果が表示されます。
5.2セグメンテーション計算	
	セグメンテーション セグメンテーション計算開始





各クラスタの色を変更できます。